

洞爺湖町子育て支援センター　TEL　0142-76-2008

メールｱﾄﾞﾚｽ　kosodate.center@town.toyako.hokkaido.jp

令和８年１１月１日

朝夕の寒さが身にしみる季節になってきました。先日洞爺湖町でも初雪が！いつもより寒さを感じる秋ですが、日中はお天気が良い日もあり、散歩も良いかなと思います。そして、大流行しているインフルエンザ！！大人もこどももしっかり食べて、身体を動かし体力をつけていきましょう。今までと変わらず、うがい、手洗い、消毒、換気も忘れずにして行きましょうね。

『１１月の予定カレンダ』

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3 文化の日	4	5	6 洞爺保育所開放	7
8	9	10 子育て教室 キラキラテータイム	11	12	13 入江保育所開放	14
15	16	17	18	19	20 本町保育所開放 （計測）	21
22	23 勤労感謝 の日	24	25	26	27 桜ヶ丘保育所開放	28
29	30					

子育て教室 10/6 キラキラティータイム
「モザイクアート」

「手作りハウス」あいびぃの方を講師に迎え、鍋敷き、小物入れ作りをしました。「このタイルがかわいい」「この色にしようかな？」とたくさんの可愛いタイルから好みのものを見つけ配置を工夫し、他のママ達とお話を楽しみながら取り組み、個性あふれるとってもかわいい作品が出来上がりました！






大流行しているインフルエンザ

感染症が流行しやすい時期になってきました。低温、低湿度の環境を好み細菌やウイルスが増えるうえに夏の暑さによる疲れが残っていたり、寒暖差によって体力が低下したりして抵抗力が弱くなるためです。予防としては手洗いうがいをしっかりしていき、症状が出たら早目に受診をした方が良いでしょう。

「あそびと環境０・１・２」引用

『189（いちはやく）　気づいたあなたが できること』

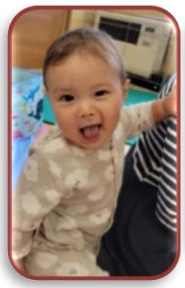
１１月は「児童虐待防止月間」
子育てに悩んでいる人など、一人で抱え込まずに
お気軽にご相談ください。周囲の人の気づきが、虐待を
受けているこどもだけでなく、虐待をしてしまう人をも
助けることにつながります。
連絡は、児童相談所相談専用ダイヤル
TEL　０１２０－１８９－７８３

(^.^) 大きくなりましたぁ!(^^)!









『話しことばの始まり』

お母さんから子どもの言葉の事について聞かれることが多くなり、参考になる冊子を見つけたので掲載しました。子どもの成長や生活環境、食育、子どもとの関わり方で言葉については個人差があります。下記の文章だけで判断せずに楽しく子育てをしましょう。

言葉の変化	例	内容
初語 （およそ１歳頃）	「ママ」「パパ」「まんま」「ワンワン」	子どもが発する意味のある初めての言葉。 子どもがしゃべり始める言葉は、大人が語りかける言葉の中の言いやすい言葉です。
一語文 （およそ１歳頃から）	「バナナ」 「＝バナナ食べたい」 「だっこ」 「＝だっこして」	物の名前（名詞）や要求語など一つの単語で成り立っている文。一語文の頃には、いかにも大人が話しているのと同じようなイントネーションで話すこともあります。 何を言っているのか意味は分かりませんが、「お話し上手だね」と答えてあげると嬉しそうにします。これは「文」を話すようになる前段階と考えられています。
二語文 （およそ１歳６ヶ月頃から）	「みかんとって」 「ごはんたべる」	目的語＋述語など、二つの単語で成り立っている文。二語文によって、自分の要求や気持ちを表していくようになります。「よんで」「かして」「ちょうだい」など、大人の言葉を真似することで使える動詞の数も増えていきます。
語彙の増加 （およそ２歳頃から）		二語文を話すようになると、爆発的に語彙が増えていきます。食べ物、飲み物のほか、衣類、（ズボン、オムツなど）日用品（コップ、スプーンなど）身の周りの物（椅子、机など）場所（家、トイレなど）植物や虫の名前など、生活に使える言葉を大人も一緒に増やしていきたい時期です。色や名前や形容詞（大きいなど）も使うようになります。
多語文 （およそ２歳６ヶ月頃から）	「ママお水ちょうだい」 「〇〇ちゃんもお花におみずあげる」	語彙が増えるにつれて、三語文、四語以上の単語を組み合わせて話すこともできるようになってきます。

あそびと環境０・１・２歳引用



絵本と出あい、絵本を読み合う

人が生きていくうえで出あう大切なものの一つに「絵本」があります。こども達は絵本を通して、絵や言葉、大好きな人と一緒に過ごす温かい時間といったさまざまな文化と出あい、それを吸収し、興味・関心を膨らませていきます。０歳児にはまだ早い？いいえ、０歳児そして１・２歳児の時にこそ、絵本との素敵な出あいを経験してほしいのです。

絵本は、大人とこどもが「読みあう」という相互作用のうえに成り立つもの。この子はこの絵をどう見ているのかな？この音をどう聞くのかな？とこどもを中心に据え、こどもが絵本と出あっていく過程そのものを、大人も一緒に楽しんでください。

こどもはそこに描かれているものの色や形、言葉や音の響き、あるいはページをめくる、という動作に興味をもったり、楽しいと感じたりします。中には「不思議だな」という顔で眺めていたり、あまり興味をもたず、はじめは無関心という事もあるかもしれません。それはそれでいいのです。自分を大切に思ってくれる人が、絵本を通して自分と向き合っていることに気づく。そこに意味があります。

絵本は魔法の力

絵本にはこどもの人としての能力を育て、親と子を幸福と信頼で包む、いくつもの宝物が埋もれています。

～赤ちゃんとの時間が楽しく、豊かに～

隣に寝転んだり、ひざに抱いたり、肌と肌を触れ合わせながら絵本を読んであげていると不思議と満ち足りた気持ちが湧いてきて心がポッと温かくなります。また、読んであげた時の赤ちゃんの表情や声などの変化を通して、成長を感じる事もできるでしょう。

～赤ちゃんにこの世界を教えてくれる～

大人にとっては不安や悩みも多い日々の暮らしですが、赤ちゃんには「あなたの生まれてきた世界はこんな素敵なところですよ。安心してね。」と絵本を通してメッセージを伝えてあげたいですね。それらが赤ちゃんの心の奥深くに蓄積され生涯の励ましになる事でしょう。

～赤ちゃんへの愛情表現を助けてくれる～

わが子に愛情を十分に伝えたい・・・。だからこそ絵本を読んであげてください。赤ちゃんにはすでに感じる力が備わり、様々なものを受け止めようとしています。そのための時間と努力は愛情表現として伝わっているはずです。

「冊子 絵本のある子育て参照」